

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2871101537		
法人名	社会福祉法人 門真晋栄福祉会		
事業所名	グループホーム宝塚ちどり		
所在地	兵庫県宝塚市亀井町10番30号 (電話) 0797-73-0880		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年2月26日	評価確定日	2008年5月27日

【情報提供票より】(20年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 6人, 非常勤 8人, 常勤換算	10.45人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,747 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (159,120円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,480 円			

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	門真晋栄福祉会診療所
---------	------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・地域の理解のもとで利用者がその人らしく安心して暮らせるホームを目指している。法人の特養、デイサービス、診療所が隣接していて、ボランティアをはじめ多くの人が入り出し、利用者のニーズに応えることができる環境である。日常的に外出の機会を設け、地域の催しや行事に参加し、馴染みの関係を作り地域の一員になれるように心がけている。地域のグループホームの連絡会はないが、協力体制は整っている。今後は事業所の機能をおおいに発揮され、地域の同業者のネットワーク作りを進め、更なる地域密着サービスの質の向上に取り組まれることが望まれる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・献立作成時から利用者の好みを聞き、できることは手伝ってもらって、食事を楽しめる支援をしている。日常業務の見直しやふくらみ(～したい)も検討した。スタッフ教育や地域との連携、利用者への対応等
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・自己評価は主任と職員で行った。自己評価作成を通して、客観的視点で日常業務を振り返り今後の改善につなげたいと考えている。具体的には、同業者とのネットワーク作りや利用者のダメージへの配慮等が検討されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・2ヶ月に1回、利用者、家族、行政、自治会、地域住民、有識者、職員が出席し事業所の報告、出席者からの質問や情報提供、助言等を得ている。今回の外部評価についても報告している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・毎月個別に利用者の暮らしぶりを写真入で家族に伝えている。法人の広報も月1回発行している。家族会は年1回開催し、ヒヤリハット報告、事故報告も行っている。外部からの介護相談員やオンブズマンの訪問日を家族に知らせ、職員及び外部者に意見、苦情、不満を表せる機会を作っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	・自治会の賛助会員になっている。法人の地域交流スペースで出張児童館が月1回開かれ、利用者は子どもたちと共に参加している。地域の行事に利用者が参加、事業所の行事に地域の住民も参加している。地域の様々なボランティアが訪問する等地元の人々との交流がよく図られている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の基本理念を共有している。理念の中に住みなれた地域での暮らしについて書かれているが、グループホーム独自の理念にはなっていない。		・事業所は地域密着型サービスとしての役割を目指した理念の見直しを検討している。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・採用時研修や現場スタッフ会議、運営推進会議等で理念の共有を図っている。家族来訪時の声かけ、掲示物、利用者が外出から帰った時の声かけ、職員相互の申し送りや話し合い等日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会の賛助会員の登録をしている。地域の催し物の案内がある。事業所の行事にも地域の住民が参加している。法人の地域交流スペースで月1回出張児童館が開かれ、利用者も子ども達と同席することがある。事業所には様々なボランティアが訪問している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は主任が職員と相談してまとめた。評価を通して、同業者との交流等ネットワーク作りの取り組みを検討したいと考えている。客観的な視点で日常業務を見直し改善する機会として活用している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に1回、利用者、家族、行政、自治会、地域住民、有識者が参加。事業所の報告、参加者からの質問や情報提供、助言ももらっている。今回の外部評価についても話している。</p>		<p>・参加者に評価結果を報告し、その後のモニター役になってもらう等評価を活用して双方向の会議になる配慮を期待したい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・文書やメールで意見交換をし、相互の連携が取れている。事業所の実情を知ってもらうため市の担当者に気軽に訪問してもらう機会を作りたいと考えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・毎月家族に対して利用者の暮らしぶりを写真入で個別に伝えている。法人の広報も月1回発行している。健康状態等変化の生じた時は随時報告している。金銭管理は家族等の来訪時に報告する。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族会を年1回食事を兼ねて開催し、ヒヤリハット報告、事故報告も行っている。外部からの介護相談員やオンブズマンの訪問日を家族に知らせ、職員及び外部者に意見、苦情、不満を表せる機会を作っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員が働きやすい環境を作り、離職を少なくするよう努めている。引継ぎは十分時間をかけて行い、職員交代での利用者へのダメージを抑えるており。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・職員は法人内外の研修に積極的に参加している。法人研究発表大会で発表する等職員のモチベーションを高める取り組みがなされている。介護技術は働きながら習得しケアの向上に努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・グループホームの連絡会はない。施設部会にグループホームも所属している。宅老所、グループホームネットワークの会員で、研修会やセミナーに参加している。</p>		<p>・地域の同業者との交流を通して、更なる地域密着サービスの質の向上に取り組まれない。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・本人、家族の意向を聞いて個別対応をしている。馴染みの品を持ち込んで安心して過ごせる環境作りを工夫している。</p>		
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・利用者から調理や昔のしきたりを教えてもらったり、職員が一生懸命やっていることをほめてもらう等支え、支えられる関係を日常の中で作っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・思いや意向を言葉がけや選択肢を出して選びやすくする等に配慮して表出に努めている。困難な場合は動作や表情、家族の意見、生活歴から把握している。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者との普段の会話の中で、本人の意向を把握し、家族、職員、必要に応じ医師や管理栄養士と話し合っ、本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・3ヶ月に1回定期見直しをし、特変事は随時見直ししている。特に排泄、残存能力の低下、精神不安定が生じた場合等観察、検討し計画を見直ししている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・利用者の希望により併設特養施設の行事に参加している。緊急時には併設診療所の協力が得られ、随時の相談にも対応している。個々の外出や家族の状況に応じた支援ができているとはいいがたい。</p>		<p>・利用者、家族の希望も考慮し、状況に応じた臨機応変な支援の検討が望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・個々のかかりつけ医、併設診療所の受診等、本人、家族の希望を優先した連携を図っている。特に緊急時は、家族と相談のうえ搬送先等を決めている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・本人、家族には、契約時及び家族会等で説明している。個々の意向を把握し、併設診療所の医師との相談も重ねながら準備している。</p>		<p>・利用者、家族の希望を確認し、希望に沿えるさらなる充実した体制づくりと、より安心できる環境整備を整える努力を今後期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>・馴染みの関係になるにつれての馴れ合いにならないよう親しみある中でも、節度ある声かけ、話し方での対応に努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・基本的なホームでの一日の流れはあるが、一人ひとりの希望と、その人らしい過ごし方の個別対応は、十分とはいえない。</p>		<p>・漠然と過ごすのではなく、その人、その日の過ごし方の希望を聞きだす工夫が求められる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・利用者の希望や好みを反映したメニュー作りをしている。買い物から調理、後片付け等少しでも一緒にできるような声かけに努め、自ら関わってもらうよう働きかける努力をしている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・夕方までの希望時間で入浴してもらっている。</p>		<p>・個別の希望をさらに汲み取る努力と、希望に応じた対応が求められる。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・過去の生活を通しての関心事や、得意なことの支援に努めている。手作りモップを作るなど手作業を好む人や、教えることを役割としている人など、個別にやりがいにつなげるように努力している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・その日の天候や、体調によって外出の機会をつくり声かけをしているが、一人ひとりの希望に沿った日常的な支援にはいたっていない。</p>		<p>・個別に外気に触れる機会をつくるなど、身近な気分転換を促すような工夫、努力を期待したい。</p>
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・玄関は日中鍵をかけないことを心がけている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・避難訓練時での非難場所の確認をするとともに、合同防災訓練に参加し、地域との協力体制につなげるよう努めている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・ほぼ栄養、水分摂取量は把握している。自分で好きな飲料を飲む人もいるが、観察しながらバランスに留意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・複数人がゆったり作業できるカウンターキッチンを備えた台所兼居間には、いくつかのテーブルと、ソファが置かれたテレビコーナーがあり、居心地に配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室は十分な広さがあり、箆笥や机、イス等使い慣れたものが置かれている。小物や装飾品の配置にも思い思いの工夫が見られる。日常的にその人が心地よく生活できる支援をしている。</p>		

 は、重点項目。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
-----	----	----	---------------------------------	---------------------	-----------------------------------